

令和 8 年 4 月 1 日  
大学院事務部

### 令和 7 年度学位授与状況について（概況）

令和 7 年度における学位授与数は、修士課程は修了判定対象者 96 名(令和 7 年 9 月修了者の修士課程 2 名を含む)中 83 名(86.46%)、博士後期課程は 29 名中 7 名(24.14%)であった。そのうち標準修業年限以内での修了に関しては、修士課程 81 名中 71 名(87.65%)、博士後期課程 14 名中 4 名(28.57%)であった。なお、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 104 条第 4 項の規定による博士の学位の授与状況(論文博士の授与状況)について、令和 7 年度においては 0 名であった。

また、標準修業年限以内で修了していない者の割合は、修士課程においては 2 年次在籍者 82 名中 12 名(14.63%)、博士後期課程においては 3 年次在籍者 14 名中 10 名(71.43%)となっている。

令和 7 年度修了者のうち学位取得に要した年数ごとの修了者割合については、修士課程は、1 年 1.20%、2 年 84.34%、2.5 年 1.20%、3 年 9.64%、4 年 3.61%となっている。また、博士後期課程は、3 年 57.14%、4 年 0.00%、5 年 0.00%、6 年 42.86%となっている。

令和 7 年度修了者のうち学位取得に要した平均年数は、修士課程 2.16 年、博士後期課程 4.29 年となっている。

令和 7 年度において標準修業年限以内で修了せずに退学した者の割合は、修士課程においては、1・2 年次の在籍者数 171 名のうち 2 名(1.17%)となっている。博士後期課程においては、1～3 年次の在籍者数 32 名のうち 0 名(0.00%)となっており、単位取得退学に関しては、3～6 年次の在籍者数 29 名中 5 名(17.24%)となっている。

また、令和 7 年度修了者における修了後の進路状況については、就職 61 名(67.77%)、進学 10 名(11.11%)、就職活動継続中 11 名(12.22%)、その他[帰国・未定・未届等]8 名(8.89%)となっている。

令和 7 年度における標準修業年限以内で修了していない者の修了していない原因については、大きく分けて、「論文提出しない」および「論文取り下げ」がある。

論文提出しない理由としては、「今の研究をさらに続けるため」、「調査報告書の刊行に携わるため」、「自身の研究をより深めるため」、「博士論文の作成を、比較対象となる研究結果の完成をもって行うため」、「論文内容に大幅な修正を加える必要が生じ、論文提出を翌年度に延期することにしたため」、「インタビューデータの分析過程で新たな発見があり、その分析を加える必要性が出てきたため」、「仕事と研究の両立が難しく、論文の作成に十分な時間を確保することが困難なため」、「調査・研究の作業に時間を要し、今年中にまとめることが難しいと判断したため」、「研究継続のため」、「論文を書き終えていないため」、「具体的な理論を網羅するには、数年の歳月を要するため」、「完成まで時間がかかるため」、「研究内容をより説得力のある形で完成するには、もう少し時間が必要と判断したため」、「研究に必要な

実証データの取得が完了していないため」、「データ取集中のため」、「研究の結論に必要な統計分析が終了していないため」などが挙げられる。

また、論文取り下げの理由としては、「論文の根拠となる資料・データの収集が不十分であり、さらなる検証が必要であるため」、「論文としてまとまるまで至らなかったため」、「来年度まで執筆に時間がかかるため」、「研究及び就職活動が十分に納得のいく状況に至っていないため」、「論文作成に必要な研究データの収集がうまくいかなかったため」、「論文作成に必要なデータの収集を行うため」、「調査が終わっていないため」、「博士論文が完成しないため」などが挙げられる。

以 上